

令和4年度

登録左官基幹技能者認定試験問題 (60分)

近畿ブロック

受講番号		氏名	
------	--	----	--

1. 試験時間 60分

2. 問題数 25題 (四肢択一法)

3. 注意事項

- (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子はあけないでください。
- (2) 受講番号と氏名は、問題用紙および解答用紙のそれぞれの所定の欄に必ず記入してください。
- (3) 本冊子は、表紙を含めて9頁です。次に、問題数を確かめてください。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあった場合には、黙って手を上げて申し出てください。
- (4) 試験開始の合図で始めてください。
- (5) 解答の方法は、次のとおりです。
 - ①正解と思うものを、1～4の番号の中から1つだけ選んで、解答用紙の解答欄にその番号を、黒の鉛筆またはシャープペンシルで記入してください。
 - ②解答を訂正する場合は、訂正する解答を、プラスチック消しゴムできれいに消した後、新しい解答を記入してください。
消し方が不十分な場合は、2つ以上解答したこととなり正解としません。
 - ③受験番号および選択した番号を正しく記入していないものは、採点せず全問題を0点とすることがあります。
- (6) 電子式卓上計算機、携帯電話の計算機能その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
- (7) 試験中、質問があるときは黙って手を上げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
- (8) 答案ができあがったら、監督者の指示に従って提出してください。ただし、試験開始30分以内の場合は、退出できないので、静かに着席していてください。

一般社団法人 日本左官業組合連合会

以下の問題をよく読み、解答用紙に正解番号を記入しなさい。

問題1 登録基幹技能者に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 登録基幹技能者は、元請の施工管理技術者に対して、施工方法等の提案・調整を行う。
2. 登録基幹技能者は、生産グループ内のチーム等の一般技能者に対して、技能者の適切な配置を行う。
3. 登録基幹技能者は、他職種の登録基幹技能者や職長らに、施工に係る指示・指導を行う。
4. 登録基幹技能者は、他職種の登録基幹技能者や職長らに、前工程・後工程に配慮した連絡調整を行う。

問題2 建設キャリアアップシステムに関して、最も不適当なものはどれか。

1. レベル1は、初級技能者であり、カードの色はホワイトである。
2. レベル2は、中堅技能者であり、カードの色はブルーである。
3. レベル3は、新人技能者であり、カードの色はオレンジである。
4. レベル4は、登録基幹技能者であり、カードの色はゴールドである。

問題3 登録基幹技能者の活用に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 建設生産現場の生産性の減少・建設生産物の低下につながる。
2. 登録基幹技能者を雇用・育成する優良な専門工事業者の受注機会の拡大が図られる。
3. 建設産業の担い手の確保・育成に大きく寄与することができる。
4. 工事の生産性の向上や品質、コスト、安全面で優れた施工を確保することができる。

問題4 登録基幹技能者に求められる能力に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 物事のひずみ度、応力度が判断できる。
2. 調査・分析結果から、対象物の全体像と要点を掌握することができる。
3. 対象物にまつわる諸条件を的確に捉え、客観的な観点から、結論を導き出すことができる。
4. 的確な分析力と判断力を有し、客観的な観点から最良の結論を導き出すことができる。

問題5 登録基幹技能者に必要な資質に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 熟達した直接的施工能力を有する。
2. 部下を指揮・指導できる。
3. 他業種との連絡・調整に努めることができる。
4. その業種のサブリーダーである。

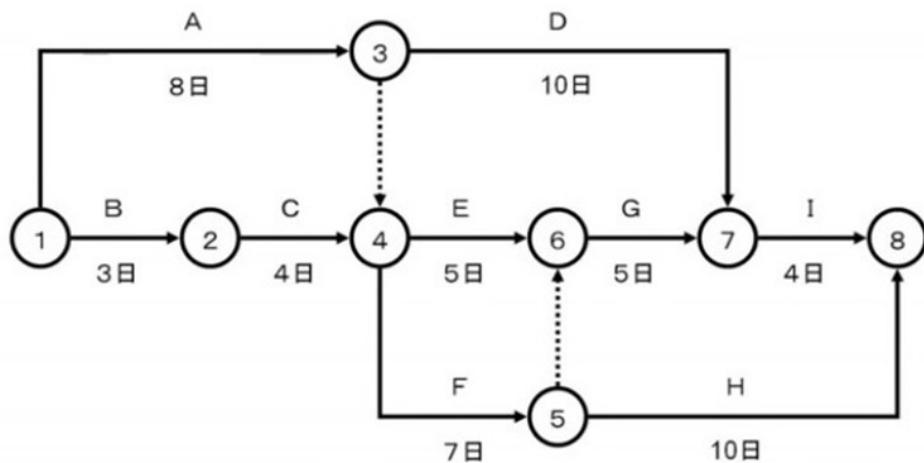
問題6 登録基幹技能者としての法令の遵守に関して、最も不適当なものはどれか。

1. コンプライアンス（法令遵守）は、企業や組織の極めて重要な社会的責任である。
2. 登録基幹技能者は、誰よりも高い倫理観と法令遵守の姿勢が求められる。
3. 自分たちの都合を優先し、その場で決めた方法でいち早く施工するプロ意識を持つことが重要である。
4. 建設工事は社会的な影響が大きな仕事であることを認識し、登録基幹技能者として、プライドとプロ意識を持ち仕事に取り組むことが大切である。

問題7 登録基幹技能者が担うべき指導・教育、自己啓発に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 元請の施工管理技術者は、新規の技能者が現場に入場する時に教育を行うが、安全教育を主とするもので、実際の作業手順・方法といった現場作業に関することは、登録基幹技能者などの上級技能者が指導しなければならない。
2. 技能者の熟達度を判断して適切な配置、作業方法、作業手順、施工指示、指導・教育を建設現場で行うことにより、作業を通して技能者のレベルを上げていくことを、OJTという。
3. OJT は、職場の上司が部下の育成のために、日常の作業を通して行う指導・教育である。
4. OFF-JT は、日常の仕事を通じて行う集合研修・教育のことである。

問題8 次の工程表に関して、最も不適当なものはどれか。



1. この工程表のクリティカルパスは、A-F-Hである。
 2. この工程表の工期は、25日である。
 3. G作業のトータルフロート(余裕日数)は、5である。
 4. G作業の最遅終了時刻(LFT)は、21日である。

問題9 新しい技術について、最も不適当なものはどれか。

- 建設業における労働生産性の向上を目指し、建設工事に ICT 技術(情報通信技術)を導入する試みが公的機関や民間事業者により継続的に実施されている。
 - 建設工事では、ICT 技術の導入による生産性向上を目指す試みが継続的に行われている。
 - BIM は、建築物の3次元モデルに加えて、建築物の部位、部材、材料、コストなどの各種情報をひもづけ、建築物のデータベースを作成し、建築プロジェクト全体の最適化をはかることができる。
 - BIM は、コンピュータ支援設計とも訳され、コンピュータを用いて設計をすること、あるいはコンピュータによる設計支援ツールのことである。

問題10 建設業法に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 元請負人は、下請負人が見積りを行うために、工事 1 件の予定価格が 500 万円に満たない工事については、7 日以上必要とする。
2. 元請負人は、下請負人が見積りを行うために、工事 1 件の予定価格が 500 万円以上 5,000 万円に満たない工事については、10 日以上必要とする。
3. 元請負人は、下請負人が見積りを行うために、工事 1 件の予定価格が 5,000 万円以上の工事については、15 日以上必要とする。
4. 元請負人は、下請負人が見積りを行うために、一定の期間を必要とする。

問題 11 現場調合セメントモルタルの塗り工法の塗り厚に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 1回の塗り厚は、6mmを標準とし、12mm を限度とする。
2. 仕上げ厚は、天井、庇が12mm 以下とし、その他が25 mm以下とする。
3. ALC パネル下地の総塗り厚は、15mm 程度を上限とする。
4. モルタルの総塗り厚が35mmを超える場合は、溶接金網、アンカーピンまたはネットなどを取り付けた上で、モルタルを塗付する。

問題 12 工官用語の解説に関して、最も不適当なものはどれか。

1. セルフレベリングは、流しこむだけで平坦になる性質のことである。
2. シーリング材料は、長時間安定して水密や気密効果がある。
3. グラウトは、作業性、施工軟度のことである。
4. スラリーとは、液体中に細かい固体粒子が濃厚に混合され、かつ安定の状態にある。

問題 13 左官用語の解説に関して、最も不適当なものはどれか。

1. コールドジョイントは、コンクリート打ち込み継続中、前の層のコンクリートを打ち込んでから相当時間経過した後に、次のコンクリートが打ち継がれたときに生ずる不連続面のことである。
2. ジャンカは、型枠解体後、硬化したコンクリートの表面に見られる、空隙の多い不均質な砂利の露出、凝集部分のことである。
3. 白華は「ブリージング」ともいい、レンガ目地、コンクリート等の表面に発生する結晶化した白色の物質のことである。
4. レイタンスは、コンクリート打設の際、浮き水と一緒に浮上したセメント中または骨材中の微粒子からなる薄い泥状物の層のことである。

問題 14 劣化のメカニズムに関して、最も不適当なものはどれか。

1. コンクリートの下地にセメントモルタルを塗りつけてある左官仕上げの壁は、
2. その境界面では、3. 異なった変形挙動がおきる。これを4. モイスチャームーブメントという。

1. コンクリートの下地にセメントモルタルを塗りつけてある左官仕上げの壁
2. その境界面
3. 異なった変形挙動
4. モイスチャームーブメント

問題 15 塗り壁の故障の原因、内容、是正措置とそれとの組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか。

1. 下地の吸水が激しいときは、吸水調整材を水で4~5倍にして下地に塗布する。
2. エフロレッセンスは、しみ・はく離を発生するので、除去することが必要である。
3. 上塗りで、ひび割れや剥離が発生するのは、塗り層で下塗りほど貧調合したことによる。
4. 未乾燥のセメントモルタルにせっこうプラスターを塗り付けると、はく離やひび割れが発生するので、セメントモルタルを十分に乾燥させてから塗り付ける。

問題 16 施工管理の用語の解説に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 設計図書は、設計図(別冊の図面)、標準仕様書、仕様書、現場説明書、質問回答書をいう。
2. 原寸図は、設計図書に含まれる。
3. 監理は、公正な立場で施工者を指導する設計業務のことである。
4. 管理は、決定された経営意志にしたがって、経営計画の運営および維持を目的とした執行の計画、統制、調整の活動のことである。

問題 17 職長として、現場打ちコンクリート下地のチェックに関して最も不適当なものはどれか。

1. 開口部、ひび割れ誘発目地、構造スリットなどの位置や形状について施工図との
(ア)適合性を確認する。
2. 下塗りに先立ち、コンクリートが、ひび割れ・ジャンカ・過度の凹凸などがある場合は、監理者に報告し、すぐに是正作業に取りかかる。
3. コンクリート表面は、せき板の残材や過度のはく離剤付着などの接着上有害な残存物のない状態にすること。
4. コンクリート表面は、はく離防止のための目荒らしまだ清掃・脆弱層の除去などが行われていること。

問題 18 建築用仕上塗材および塗料に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 建築用仕上塗材は石やタイルなどに比べて重量が軽い。
2. 建築用仕上塗材は石やタイルなどに比べて下地の挙動に対する適応性が小さい。
3. 塗料は、最大 100 ミクロン未満の薄いフラットな仕上げが多い。
4. 仕上塗材は 0.5~15mm という厚塗りで粗い凹凸とするものが多い

問題19 建設工事の特徴に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 建設工事は、決められた施工方法で毎回同じものを生産する必要がある。
2. 建設工事は、目的物が土地の上に固着してつくられるので、現地で工事を行う必要がある。
3. 建設工事は屋外の工事が多く、降雨、出水、土質など天候・自然現象の不確定要素に左右される。
4. 建設工事は現地生産のため、現場での社会的制約を受けることとなり、安全や環境保全対策を前提とした管理が重要となる。

問題20 PDCAサイクルに関して、最も不適当なものはどれか。

1. 第1段階では、安全の確保は当然のこととして、品質、工程、原価の面で優れた計画を練り上げる。計画段階でチェックのタイミングや品質管理基準値などの判断基準を適切に設定しておくことが重要である。
2. 第2段階では、計画に基づき適切に施工するとともに、実際の施工状態を容易に判断できるようなデーターを正確に調査・記録しておくことが重要である。
3. 第3段階では、計画通りに実施されているか、調査・記録したデーターを適切に検証・判断し、差異がある場合にはその要因を明確にする。
4. 第4段階では、第3段階における判断結果に基づき、新たな計画を立てる。

問題21 仮設備計画に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 仮設備という呼び方につられて、ややもすると、手を抜いたりおろそかになったりしやすく、事故の原因となって、かえって多くの費用が必要となる場合がある。
2. 一般に仮設備は本工事と異なり、いかなる場合であっても施工業者にすべてが委ねられる。
3. 仮設備は、工事目的物ではなく、臨時的なものであって工事完成後、原則として取り除かれる。
4. 仮設備は使用目的、使用期間等に応じて計画、設計し、作業中の衝撃、振動等を十分考慮に入れた設計荷重で強度計算を行い、また労働安全衛生法に基づいた計画とする。

問題22 建設工事費の構成に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 直接工事費とは、工事目的物を作るために直接必要とする費用である。
2. 建設工事費は直接工事費と共通費で構成されている。
3. 共通仮設費とは、工事施工にあたり工事現場を管理運営するために必要な費用であり、現場従業員の給与手当等や労務管理にかかる費用などを指す。
4. 一般管理費等とは、工事施工にあたる受注者の継続運営に必要な費用としての一般管理費と付加利益を指す。

問題 23 わが国建設業における労働災害について次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 死亡災害を事故の型別で見ると、建設工事全体では墜落による事故が最も多い。
2. 建設業は、他産業と比べて労働災害発生率が高い産業である。
3. 労働災害とは、労働者が就業中に負傷、疾病、障害、死亡する災害のことであり、通勤中の事故は含まれない。
4. 建設業は、多業種の専門工事業者が作業するため安全対策が難しい業種である。

問題 24 各種労働災害防止について次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 高さが 2m 以上の所で施工する足場組立・解体には、作業床を設置する必要がある。
2. 異常気象が予想される場合は、作業中止を含めて作業予定を検討する必要がある。
3. WBGT(暑さ指数)は熱中症対策に有効な情報である。
4. 居ながらリフォーム工事では多くの場合、電気やガスを止めずに行うので安全である。

問題 25 法で定められた建設現場における安全管理について次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 作複数業者が混在する 50 人の建設現場での少人数の 2 次下請けは、安全衛生責任者を選任する必要がない。
2. 型枠支保工の組立作業は、作業主任者を選任しなければならない作業に含まれる。
3. 現場では、作業員は常に安全な作業環境を保つ義務がある。
4. 元請業者は、新たに就労する作業員に対して新規入場者教育を行う必要がある。